

平成 2 2 年度 決算

普通会計決算認定特別委員会説明資料

徳島県警察本部

I 平成22年度警察本部主要施策の成果の概要

第1 身近な犯罪の抑止と安全・安心の確保

県警察においては、県民が身近に不安を感じる犯罪の抑止と検挙を最重点課題として、総合力を挙げて「街頭犯罪及び侵入犯罪抑止総合対策」に取り組んだ結果、平成22年中の刑法犯認知件数は7,108件と、ピーク時の平成15年当時と比較して約4割以上減少し、街頭犯罪及び侵入犯罪の認知件数についても、ともにピーク時と比較して半数以下になった。

また、県下の防犯ボランティア団体との連携を強化し、合同パトロール等を実施するなど、地域の自主防犯活動の更なる活性化に努めるとともに、県警察においては「犯罪の起きにくい社会づくり」の構築に向けた諸対策を推進し、子ども・女性に対する「声かけ」、「つきまとい」等といった不審者情報や犯人検挙の情報等をタイムリーに提供したほか、防犯ボランティア活動に対する支援を行い、また、防犯効果の高い「街路灯」や「防犯カメラ」の設置を関係事業者等に働きかけるなど、犯罪抑止のための各種施策の強化に努めた。

第2 重要犯罪等の徹底検挙

平成22年中の重要犯罪の認知件数は57件、検挙率は75.4%であった。

組織犯罪対策としては、暴力団犯罪111件91名を検挙したほか、県民に大きな脅威となっている暴力団を社会から排除することを目的とする「暴力団排除条例」を制定していただいた。

また、構造的不正に対する取組みとして、町議会議員らによる贈収賄事件等の知能犯罪を検挙した。

第3 交通死亡事故の抑止

平成22年中の交通事故死者数は、昭和35年に道路交通法が施行されて以降、2番目に少ない44人と、3年連続で50人を下回った。

また、飲酒運転による交通事故が対前年比で半減したほか、シートベルト着用率が平成8年以降初めて、運転席と助手席共に全国平均を上回った。

第4 災害、テロ等緊急事態への対処の強化

今後、高い確率で発生が予想される南海地震や台風等による災害等が発生した場合において、迅速・的確な初動活動が行えるよう、関係機関等と連携して訓練を重ね、対処能力の向上に努めた。

第5 現場執行力と警察活動基盤の強化

大量退職・大量採用に伴い、職員の新陳代謝が進む中、県警察においては、「精強な第一線警察構築総合プラン」を策定し、初動活動の充実強化や若手警察官の早期戦力化に向けた諸施策を推進した。

II 主要事業の内容及び成果

(単位：千円)

| 事業名 | 事業内容及び成果 |
|-----------------|---|
| 警察施設整備事業 | <p>南海地震等に備え、牟岐警察署の耐震改修工事に着手するとともに、那賀警察署の耐震改修にむけた設計を行うなど、県南方面の防災対策を推進した。</p> <p>また、老朽、狭隘の著しい警察施設の改善を図るため、鳴門警察署大谷駐在所、小松島警察署横瀬駐在所、石井警察署白鳥駐在所、吉野川警察署山川駐在所、阿波警察署柿原駐在所、美馬警察署清水駐在所の計6箇所の建て替え、並びに吉野川警察署鴨島町宿舎の改修を実施するなど、地域の安全センターとしての基盤整備を推進した。</p> <p style="text-align: right;">(243, 338)</p> |
| 交通安全施設整備事業 | <p>新設道路等に対し、道路管理者と連携して効果的な交通安全施設等の整備を行うとともに、道路交通情報の収集・提供のための交通管制システムの整備充実を推進した。</p> <p>また、信号灯器のLED化の推進をはじめ、道路標識及び標示の更新を行い、交通の安全と円滑化を図った。</p> <p style="text-align: right;">(584, 666)</p> |
| 交通死亡事故抑止集中対策事業 | <p>交通死亡事故を抑止するための各種施策及び装備資機材の整備充実を図った。</p> <p style="text-align: right;">(17, 102)</p> |
| 運転免許センター等移転整備事業 | <p>老朽化の著しい現運転免許センターを旧空港ターミナルビルへ移転整備することで、既存ストックの有効活用を図るとともに、大規模災害時における応援部隊の防災活動拠点とするなど、県民の安全安心を確保するため、旧空港ターミナルエリア用地及びターミナルビルを購入し、改修に係る設計に着手した。</p> <p style="text-align: right;">(1, 857, 867)</p> |

Ⅲ 歳入歳出決算額

1 一般会計決算額

(1) 歳入決算額

(単位：円)

| 区 分 | 予 算 現 額 | 調 定 額 | 収 入 済 額 | 不納欠損額 | 収入未済額 | 予 算 現 額 と 収 入 済 額 と の 比 較 |
|---------|---------------|---------------|---------------|-------|-----------|---------------------------------|
| 警 察 本 部 | 4,140,803,000 | 3,670,238,158 | 3,666,931,158 | 0 | 3,307,000 | △473,871,842 |

(2) 歳出決算額

(単位：円)

| 区 分 | 予 算 現 額 | 支 出 済 額 | 翌年度繰越額 | 不 用 額 | 予 算 現 額 と 支 出 済 額 と の 比 較 |
|---------|----------------|----------------|-------------|-------------|---------------------------------|
| 警 察 本 部 | 22,884,112,050 | 22,184,305,373 | 469,561,456 | 230,245,221 | 699,806,677 |